



第251回中央委員会で、いずれの協議事項も満場一致で可決決定された。(12月11日、ラッセホールで)

第251回定例中央委員会

12月11日、第251回兵教組定例中央委員会がラッセホールで開催された。冒頭、山名幸一執行委員長は「兵庫の教職員が全国の教育をリードするんだという気概をもってとりくんでいきたい」とあいさつした。(要旨掲載)

報告事項、協議事項に続き各支部、専門部からの意見が述べられた。また、「第22回参議院議員選挙の必勝をめざす特別決議」が提案され、来年7月の参議院選挙での兵庫選挙区「みずおか俊一、比呂区「なたにや正義」の必勝を期し、法令遵守のもと組織の総力をあげての闘いが意思統一された。

2009年度兵教組教育課程学習会より



フィンランドの教育関係者を招いての貴重な教育講演会となった。(12月4日、ラッセホールで)

12月4日、2009年度兵教組教育課程学習会を2部構成で開催した。第1部の教育講演会(次号要旨掲載)は、兵教組が初めてフィンランドの教育関係者を招き、フィンランドの教育制度、教育予算、教育方針、教育内容等の講演と、参加者から質疑応答・意見交換が行われた。各界からの様々な立場の方々や県外からの教育関係者など158名が参加した。

冒頭、山名幸一執行委員長は主催者あいさつで、「昨年12月フィンランドを訪問し、フィンランドの教職員組合(OAJ)や公立学校の見学をした。大変大きな驚きと深い共感を覚えた。まさに私たち兵教組がめざす教育創造と教育条件整備のとりくみにとって参考になる」また、「教育を中心とする民主的社会的実現」をめざす私たちの方向性の一つのモデルがフィンランドにあると確信する」と話した。

★1部参加者の感想 「比較しない。これから59次兵庫県教育研究会のまとめとして、県教研の成果を教育課程編成に生かす」とりくみが問題提起された。また、新学習指導要領と教育課程編成上の課題として、第32次学校の教育課程実態調査よりの報告があった。

★2部参加者の感想 ★組合活動に理解を示されている人材はたくさんいるので、各支部は人材の発掘に努力すべきだと思つた。 ★教育課程実態調査報告書を見る度、学校現場には本当にたくさん課題や問題点、改善点があると再認識した。 ★いつも答えているアンケートが、報告書としてまとめられ、次年度に生かされていると分かった。

らに質疑応答・意見交換が行われた。各界からの様々な立場の方々や県外からの教育関係者など158名が参加した。

★「教員のより高い資質が必要で、その資質を高めるための組合である」の言葉が印象的だった。

★子どもたちの「平等」を保つためのきめ細やかな支援が必要だと思つた。



山名委員長あいさつ ます、政権交代を実現し、民主党を中心とする新政権が誕生したことを喜びたい。勤労者・生産者に親しい。点をあてた政治を期待したい。

震災以降の厳しい状況と自民党の三位一体構造改革によって地方がずたずたに切り捨てられている。人事委員会勧告では、4月にさかのぼって給料が引き下げられ、持ち家の手当に對しても一律1,000円を4月にさかのぼり調整する等々厳しい状況にあつた。しかし、これについては粘り強い交渉と団結の力でね返すことができた。

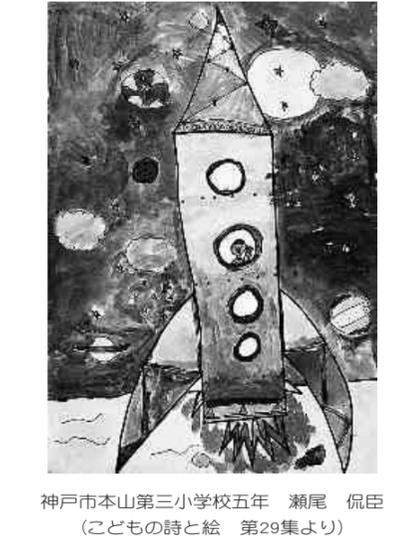
今年、一人ひとりの組合員が教育長宛に要求書を署名捺印し、届ける戦術に変えた。2万組合員のうち、諸事情で休職している方もおり、実際は1万9千人ぐらゐが要求書を提出する対象となる。この99.93%の人が署名し、これを教育長の前に積み上げて交渉を実施することができた。

今後さらなる団結を呼びかけたいと思つた。闘いがどんな形になつたとしても、最も大事な根底にあるものは「団結」であると思つている。兵教組は、一度決定されたことについて、全員が同じ方向をむいて頑張るといふ体制がある。この兵教組の伝統を引き継ぎながら、再び兵教組としての団結の力を見せつけたと思つている。また、兵政連議員の皆さん、共闘団体である県職労、兵高教の皆さんとの団結の力が集約された結果だと思つた。

教育ひょうご

闘いの根底にあるものは「団結」に他ならない

当面する運動推進について、兵教組のさらなる飛躍を呼びかける



神戸市本山第三小学校五年 瀬尾 侃臣 (こどもの詩と絵 第29集より)

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 山名幸一
編集人 川原芳和
電話 050(3538)2346
1部7円 年定価280円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2009/12-21
No. 1756

2面
「ネットワークで子どもを育てよう」教育フェスティバル
子どもの育ちを考えるシンポジウムより

中途加入募集中

医療共済

1泊2日以上入院や手術を保障。各オプションもセットできます。1年ごとに契約内容を見直すことができます。

契約例	
入院5,000円タイプの場合 (医療スタンダード5口=基本契約+長期入院特約+手術特約+退院特約)	
入院	1日につき5,000円
ガン入院	1日につき1万円
長期入院	一時金で15万円
手術	一時金で20万~5万円
退院	一時金で5万円

月掛金 1,750円

さらに特定の病気に備えるならオプションをセット!

- 月掛金 905円で ガン診断特約(5口) 出生後初めてガンと診断されたら 一時金で100万円
- 月掛金 260円で 生活習慣病特約(5口) 所定の生活習慣病で1泊2日以上入院したら 1日につき5,000円
- 月掛金 310円で 女性特定疾病特約(5口) 所定の女性特定疾病で1泊2日以上入院したら 1日につき5,000円

ネットワークで子どもを育む — その実践とこれからの課題 —

子どもの育ちを考えるシンポジウムより (抜粋)



見澤さんは小学校教員の立場から、児童理解、保護者との連携、子どもの安定、子どもをプラスで考える習慣の4点のポイントを話した。(11月14日、丹南中体育館にて)

あたたかいネットワークづくりをめざす 学校・施設の先生からの実践報告から 共通のまなざしで子どもにしっかりと向き合う

山名執行委員長あいさつ



11月14日、第59次兵庫県教育研究会記念事業として、兵庫教育文化研究所、兵庫県教職員組合、文科省認可財団法人こども教育支援財団、総合教育研究財団との共催により子どもの育ちを考えるシンポジウムを開催した。

「ネットワークで子どもを育む—その実践とこれからの課題—」をテーマに、保護者、地域の方を含め教職員約210名が参加し、確実なネットワークの広がりを感じさせる会となった。2部構成で、1部は実践報告。2部では、1部での質問や意見、感想のアンケートに答える形でフォーラムが行われた。

※話の要旨を1部、2部に分け掲載する。2部は2010年1月11日号に掲載予定。

子ども教育支援財団とともに、不登校の問題をシンポジウムとして開催しようという始まり、今年で8年目となる。

私たちはこの間、不登校の子どもの問題のみならず、各公立小学校、中学校に在籍している児童養護施設から通う子どもたちの問題にも目を向けた。子どもの虐待問題が大きな社会問題として報道されるたび、親元を離れ、施設で生活しながら学校に通っている子どもたちの背景には、子ども虐待といった問題が秘められているのではと考え、その子どもたちの問題についての事実を知りたいという思いから研究会を立ち上げた。

そして、ネットワークをつくっていく中で、子どもたちの育ちについて総合的、トータル的に考えていくシンポジウムへと拡大し、発展させていくべきと考え今回のテーマとした。

1部 実践報告より

見澤光徳さん(小学校教員)

在籍する小学校は、全児童数が45名の小規模校。その内の39名(86・7%)が校区内にある児童養護施設(以下、学園)から通って



くる子どもたちだ。この子どもたちは、ほとんどが親族からの暴力や育児放棄などの虐待を受けている。ある意味では、特殊な状況下にある学校だが、私たちがおこなっていることは、何も特別なことではない。学園の児童の多くは、学習経験や生活体験の乏しさ、また、いわゆる発達障害等により、自分の気持ちをうまく表現できないとか、言葉に詰まるとだれか構わず暴力が出る、気に入らないことがあるとすねて教室を飛び出すなど、情緒的に不安定で、社会的な規範が不足しており、学力的にも厳しい状況にある子どもが多い。

①徹底した児童理解。子どもの生育歴から、出生の状況、入所までの経緯、学習面、情緒面などの一人ひとりの情報をきちんと把握するためのカルテを作っている。そして、すべての教職員が全児童の担任のつもりで職員間の共通理解を徹底している。また、職員間の意見交換、情報交換を朝夕かまわず子どもの話をしている状況にある。

②保護者との連携を密にする。この場合の保護者は、親族ではなく学園の先生方だ。2週に1度は、必ず個人名を挙げての打ち合わせをしている。

③心の安定を図る。学園から通ってくる子どもたちは、本当に色んな思いを背負って学校に来ている。やつの思いで生きていくような子どももいる。だからこそ、「よく学校に来たな」と朝の声掛けから始める。

被虐待児童の入所数は6割を超えている。また、何らかの発達に障害のある子どもたちは3割程度在籍する。色んな子どもがいるが、「施設の子」ではなく、人として当たり前のことを子どもたちに伝えていけるかが大切ではないか。

子どもたちは、施設に入った日から「施設の子」になり、退所すれば地域に戻って行く。「施設の子」のくくりではなく、その子も含め「地域の子」という目で見守っていただきた切だ。

では、普段どんな事に気をつけて過ごしているのかと尋ねると4つある。

④語弊があるかも知れないが、「育て直し」をする。教員はどうしても出来ないことをマインナスでカウントしていきがちだが、これが出来るから次はこれと、プラスで考える習慣を考えている。学習面でも、下校時まで勉強を続けていく。子どもたちも自分の学力が上がっていく喜びで一生涯学習する姿に、こちらも励みになっているような状態が続いている。

また、一人ひとりの子どもにもきちんと向き合うことが大切だと、再認識したところだ。児童養護施設から情緒障害児短期治療施設へ変わることを検討されていた子どももいた。トラブルの連続で職員も疲弊していたが、もう一度心理士も含め、その子にとって出来ることを施設全体で考え、登下校時の付添いをおこなっている。トラブルを避ける手段ではなく、子どもと向き合う時間と考え、何度も授業参観を重ねていく中で、子どもに先生が自分との時間を大切にしてくれていると伝わり、少し問題行動が減少している。

また、保護者がいなくて施設に入所している子どもはほとんどいない。保護者に色んな事情があり、精神疾患を持っている親もいる。私たちは、担当者一人抱え込まず、職員全体として保護者に対応することが大切だ。無理難題を言ったり子どもにひどい虐待をするような親でも、「親」として接することが大切だと思っ

児童家庭支援センターは10年ほどの歴史で、全国に77ヶ所、兵庫県には7ヶ所、施設の子どもたちというよりは、地域のお母さん、子どもに係る仕事かメイン。施設は地域の一人という意識を守っており、地域に育ててもらっている部分もある。ゴミだしや溝・川掃除など子どもたちとともに職員が参加し、地域の方々とふれあい、学園を知ってもらえるようにしている。また、地域の方に褒められたり叱られたりする。職員とは違う関係性の中で、子どもたちはまた違う顔を見せる。



児童家庭支援センターは10年ほどの歴史で、全国に77ヶ所、兵庫県には7ヶ所、施設の子どもたちというよりは、地域のお母さん、子どもに係る仕事かメイン。施設は地域の一人という意識を守っており、地域に育ててもらっている部分もある。ゴミだしや溝・川掃除など子どもたちとともに職員が参加し、地域の方々とふれあい、学園を知ってもらえるようにしている。また、地域の方に褒められたり叱られたりする。職員とは違う関係性の中で、子どもたちはまた違う顔を見せる。

児童家庭支援センターは10年ほどの歴史で、全国に77ヶ所、兵庫県には7ヶ所、施設の子どもたちというよりは、地域のお母さん、子どもに係る仕事かメイン。施設は地域の一人という意識を守っており、地域に育ててもらっている部分もある。ゴミだしや溝・川掃除など子どもたちとともに職員が参加し、地域の方々とふれあい、学園を知ってもらえるようにしている。また、地域の方に褒められたり叱られたりする。職員とは違う関係性の中で、子どもたちはまた違う顔を見せる。

児童家庭支援センターは10年ほどの歴史で、全国に77ヶ所、兵庫県には7ヶ所、施設の子どもたちというよりは、地域のお母さん、子どもに係る仕事かメイン。施設は地域の一人という意識を守っており、地域に育ててもらっている部分もある。ゴミだしや溝・川掃除など子どもたちとともに職員が参加し、地域の方々とふれあい、学園を知ってもらえるようにしている。また、地域の方に褒められたり叱られたりする。職員とは違う関係性の中で、子どもたちはまた違う顔を見せる。

児童家庭支援センターは10年ほどの歴史で、全国に77ヶ所、兵庫県には7ヶ所、施設の子どもたちというよりは、地域のお母さん、子どもに係る仕事かメイン。施設は地域の一人という意識を守っており、地域に育ててもらっている部分もある。ゴミだしや溝・川掃除など子どもたちとともに職員が参加し、地域の方々とふれあい、学園を知ってもらえるようにしている。また、地域の方に褒められたり叱られたりする。職員とは違う関係性の中で、子どもたちはまた違う顔を見せる。

児童家庭支援センターは10年ほどの歴史で、全国に77ヶ所、兵庫県には7ヶ所、施設の子どもたちというよりは、地域のお母さん、子どもに係る仕事かメイン。施設は地域の一人という意識を守っており、地域に育ててもらっている部分もある。ゴミだしや溝・川掃除など子どもたちとともに職員が参加し、地域の方々とふれあい、学園を知ってもらえるようにしている。また、地域の方に褒められたり叱られたりする。職員とは違う関係性の中で、子どもたちはまた違う顔を見せる。

厚生会会員限定

かづきれいこ 講演会

かづきれいこさんから、仕事を頑張る女性たちへ

メイクは、自分自身が明るく前向きな気持ちになるためのひとつのツールなのです。

皆さんにとって、「化粧」とはどんなものですか? 「面倒くさい」「むずかしい」、または「自分を磨くこと」と思われる方も多いのではないのでしょうか。

私は生まれつき心臓が悪く、冬になると顔が真っ赤になっていたのですが、化粧することで心の負担が軽くなった経験があります。私にとっては「たかが化粧ではなく、それが化粧」なのです。化粧に感銘を受けたという気持ちで、化粧がもつ「真のイメージ」を取り戻したいと、独自のメイク法を生み出しました。

「化粧した私も、素颜の私も自分」と思えるような、自然体のメイク。化粧がすれにくく、シンプルで理知的なメイク。おしゃべりや流行ではなく、毎日楽しく過ごせるためのメイク。自分が変われば、周囲も変わります。自分の気持ちを明るくすることで、周囲の人との関係まで改善してくれます。メイクにはそんな力があるのです。

かづきれいこ Profile
フェイシャルセラピスト
歯学博士
REIKO KAZKI主宰

メイクを通じて女性の心理を追求。また、医療機関と連携し、傷あと、やけどのあとなどのカバーや、それに伴う精神のケアを行う「リハビリメイク」の第一人者。テレビ・講演会などで活躍。学会誌にリハビリメイクに関する論文を発表し、メイクの価値を高めるための活動に力を注ぐ。現在、新潟大学歯学部臨床教授・早稲田大学感性領域総合研究所客員教授ほか大学にて非常勤講師を務める。

顔と心と体~私が変わる! 10歳若くなる! 元気になるメイク~

講演&メイク実演

「顔と心と体」はつながっています。メイクの力を借りて、自分をもっと好きになり元気になれる方法について、症例の紹介や自身の体験を交えての楽しいお話をします。また、ごく普通の女性を素敵にする、最新メイク法をかづきれいこさん本人が会場デモンストレーションをしながら解説します。

開催日時 2010年2月27日(土)14:00~16:00(受付 13:30~)

会場 ラッセホール 神戸市中央区中山手通4-10-8

対象 現職会員・現職準会員とその家族

募集人数 250名(最少実施人数200名)

参加費 1人500円(1名につき4席まで応募可能) ※4月の給与から引き去ります。

申込方法 「ふれあい12月号申込書」にて下記宛て郵送またはFAXでお申込みください。(FAXの場合は、必ず送信確認の連絡をお願いします) ※電話での申込は、受け付けていません。

申込締切日 2月3日(水) [福祉厚生部必着]。 ※申込者多数の場合は抽選になります。 ※参加が決定しましたら、所属先へお知らせいたします。

申込み・問合せ先 〒650-0012 神戸市中央区北長狭通4丁目7番34号 兵庫県学校厚生会 福祉厚生部 ☎(078)331-9311 FAX(078)331-8050

※当日、兵庫県阪神地域に警報が発令された場合は、中止することがあります。